

## R7.6. 5 学習会参加者アンケートのまとめ

A：本日の研修で印象に残ったこと・内容を記入ください。

### 1 愛着障害と発達障害の違いと対応の重要性

- ・ADHDなどの発達障害と愛着障害は似た行動を示すが、原因や対応は正反対であることが印象的だった。
- ・見分けが難しく、支援方法も異なるため、正確な理解と観察が必要だと感じた。

### 2 愛着障害の特徴と多様性の理解

- ・愛着障害には複数のタイプがあり、それぞれに応じた関わり方が求められる。
- ・「愛着障害でなければ見られない特徴」があることを知り、学びが深まった。

### 3 感情と行動を分けて考える視点

- ・子どもの感情をまず受け止め、その後に行動について話すことで、より良い支援ができると感じた。
- ・感情と行動を切り離して考えることの大切さに気づいた。

### 4 愛着形成にはタイミングと安心基地が不可欠

- ・愛情は「欲しいタイミング」で与えることが重要で、自己満足では逆効果になることもある。
- ・安心基地の存在が愛着形成に不可欠であり、親以外の大人もその役割を担える。

### 5 大人の関わり方と支援体制の大切さ

- ・子どもが困っている背景には本人の意思とは無関係な要因があることを理解し、共感的に関わる姿勢が求められる。
- ・一人で抱え込まず、支援者同士の連携と共通理解が重要であると感じた。

A：本日の学びや気づきを生かし今後どのように取り組もうと思われませんか。

### 1 子ども一人ひとりに寄り添う関わりの実践

- ・子どもの気持ちや背景に丁寧に向き合い、困り感に気づき、適切な対応を心がける。
- ・「嬉しい・楽しい」などのポジティブな感情を共有し、安心できる関係づくりを意識する。

### 2 愛着障害と発達障害の理解と見極めの深化

- ・両者の違いを学び直し、観察力を高めて適切な支援につなげる。
- ・健診や日常の関わりの中で、背景を見極めながら関わる意識を持つ。

### 3 保護者との連携と家庭支援の強化

- ・保護者の育てにくさや不安に寄り添い、信頼関係を築きながら支援を行う。
- ・保護者支援の視点を持ち、家庭全体を支える姿勢を大切にする。

### 4 職員間の情報共有とチームでの支援体制づくり

- ・気になる子どもや親子について、教職員間で共通理解を図り、連携して対応する。
- ・クラス内や学校、園全体で学びを共有し、支援の質を高める。

### 5 自己の振り返りと成長への意欲

- ・自身の関わり方や愛着形成の経験を見つめ直し、より良い支援につなげる。
- ・継続的な学びを通じて、よりよい支援者として成長する意欲を持つ。